

(ご参考②) サブプライムローン関連エクスポージャーと上期業績への影響概要

- ① 三井住友銀行における米国サブプライムローン関連のエクスポージャーは、19年9月末において約950億円。投融資ポートフォリオに占める割合は0.1%程度。
- ② RMBS、ABSCDO等の証券化商品への投資については、19年度上期中に約3,500億円の売却を行い、約40億円の売却損を計上。19年9月末の保有額について、期末時価が額面の50%を下回ったものを対象に償却を約170億円実施した結果、償却後簿価は約700億円。

米国拠点で行っているウェアハウジングローン等(約400億円、うちサブプライムローン関連資産が担保となっている部分は約250億円)については、担保資産の一部にサブプライムローン関連資産が含まれていたことから、DCF法等に基づいた引当処理を実施。サブプライムローン関連部分としては約110億円引当。

上記の売却及び償却・引当コスト(約320億円)については、サブプライムローン問題を契機とした内外の金利低下局面を捉えた債券売却益計上等による市場営業部門収益等の増益により吸収。

なお、RMBS、ABSCDO等の証券化商品の19年9月末残高約700億円に対する評価損益は約180億円の評価損となるが、これを含めたその他有価証券の評価損益全体では約1兆5,000億円の含み益。

上記、RMBS、ABSCDO等の証券化商品については、格付会社のサブプライム関連証券の大量格下げによる時価下落を反映させた19年11月8日時点の評価損益は、9月末比約320億円悪化の約500億円の評価損。
また、ウェアハウジングローン等のうち、担保資産となっているサブプライムローン関連資産の評価額は9月末比約50億円下落。
一方、その他有価証券全体の10月末の評価損益は、約1兆6,000億円の含み益。

- ③ 三井住友銀行以外の連結子会社(三井住友銀行の連結子会社を含む)については、19年9月末において、サブプライムローン関連のエクスポージャーはない。

また、三井住友銀行がスポンサーを務めているABCPプログラムの保有資産は、顧客の売掛債権が大半であり、19年9月末において、サブプライムローン関連の資産は含まれていない。

貸出ポートフォリオ(約55兆円)

国内業務部門 47.0兆円	国際業務部門 8.0兆円
------------------	-----------------

うち、サブプライムローン関連エクスポージャー(19/9末)

ウェアハウジングローン等残高(約250億円)

- ・投資銀行が証券化商品を組成する際に、対象資産が集まるまでの間、与信を供与する業務等
- ・担保価値の急落に伴い、米国での関連与信(約400億円)のうち、サブプライムローン関連資産が担保となっている部分(約250億円)については、約110億円を引当。

有価証券ポートフォリオ(約20兆円)

国内債券 10.5兆円	国内株式 4.4兆円	その他 4.9兆円
----------------	---------------	--------------

RMBS、ABSCDO等投資残高(約700億円)

- ・19年度上期中に約3,500億円を売却、売却損を約40億円計上。
- ・19年9月末の残高(償却後簿価)は約700億円。一部の銘柄について、上期末に、償却を約170億円実施。
- ・19年9月末残高に対する評価損益は約180億円の評価損。

(注) 図中の金額は、19年9月末の三井住友銀行単体の残高